

青年海外協力隊事業評価に関するアンケート調査

外務省のODA事業につきましては、日頃よりご協力をいただきありがとうございます。

さて、青年海外協力隊事業は、1965年の発足以来、37年目を迎え、協力隊派遣取極締結国は総計77カ国（平成13年7月末現在）、事業発足時からの累計では2万2千名を超える隊員を派遣しております。

これまで同事業は、要請国及び受入機関・地方自治体より高い評価を得てきております。また、近年、途上国の社会開発分野における協力ニーズは増加・多様化してきており（平成12年度の各国からの派遣要請は約1,900件、要請職種は約140種）、今後はこれらのニーズに迅速に対応していく必要があります。

一方、国内においては、日本の厳しい経済・財政事情を反映し、ODAに対する厳しい見方が存在します。もとより、同事業は青年の自発性に基づくボランティア事業ではありますが、ODAの一環である以上、より効果的な事業の実施が求められており、事業の成果を重視する傾向、及びその評価への重要性の認識が高まっております。

外務省としては、青年海外協力隊事業を適正かつ効果的に実施し、透明性を高める等様々な改善を推進していく考えです。本アンケート調査は、派遣中隊員の皆様の幅広いご意見をお聞かせいただき、更なる青年海外協力隊事業の向上に反映させていくことを目的としております。

なお、皆様にご回答いただいたアンケートは、分析以外の用途に使用せず、個別情報の外部への提供は一切行いませんので、お名前についてもできる限り記載をお願いします。

今後とも皆様のご意見に耳を傾けながら、ODAの改善に向けて努力を続けていく考えです。

ご多忙中大変恐縮ではありますが、ご協力よろしくお願い申し上げます。

外務省 経済協力局 評価室

◎ 本アンケートの配布・回収、ならびに集計結果の分析・評価については株式会社 アース アンド ヒューマン コーポレーションに委託しております。

本アンケートに関するお問い合わせは、以下をお願いいたします。

株式会社 アース アンド ヒューマン コーポレーション

住所 : 東京都町田市玉川学園8-3-23 〒194-0041

担当 : 金子 真知 TEL : 042-710-7661

FAX : 042-710-7665

E-Mail : KYW05764@nifty.ne.jp

派遣中隊員用アンケート

お名前：			
派遣国：	派遣隊次：	職種：	
派遣地域：	1. 首都	2. 地方都市	3. 農村
派遣先での位置づけ：	1. 指導型	2. 共同活動型	3. マンパワー提供型
参加形態：	1. 新卒	2. 退職	3. 現職参加
現在の年齢（お差し支えなければお答えください）：			歳

I. 青年海外協力隊（以下、協力隊）事業全般についてお聞きます。

Q1：あなたが派遣前に協力隊の活動に期待していたことは、次のうちどれですか（複数回答可）。

1. 目標を設定し、その目標を達成すること
2. 自分のもてる技術や労働力を提供し、現地の人々の生活改善に役立つこと
3. 現地の人との交流
4. 異文化経験を通じた自己啓発
5. 国際協力関係の仕事につくためのステップ
6. 語学力の向上
7. その他（具体的に： _____ ）

Q2：現在、日本政府が協力隊事業を行う目的は大きく、以下の（1）～（3）の3つとされています。それぞれの目的は、あなたにとってどの程度重要なものですか。

（1）相手国の社会・経済発展への寄与（○は一つ）

1. 重要
2. やや重要
3. あまり重要でない
4. 重要でない

（2）国際交流・二国間の関係の増進（○は一つ）

1. 重要
2. やや重要
3. あまり重要でない
4. 重要でない

（3）日本の青少年の人材育成・日本社会への還元（○は一つ）

1. 重要
2. やや重要
3. あまり重要でない
4. 重要でない

Q3: 協力隊を幅広く理解してもらい、より参加しやすい制度にするためにはどうしたらよいと思いますか
(複数回答可)。

1. 協力隊事業を広く知ってもらうための広報活動をもっと活発に実施する
2. 国際協力の必要性や協力隊事業の安全性を知ってもらうための広報活動を展開し、家族の理解・同意が得やすいような環境づくり
3. 企業の雇用環境の改善(中途採用や転職がマイナスとならない雇用市場等)
4. 派遣期間を2年に限定せず、長短のバリエーションを増やす
5. 応募時期を春募集・秋募集に限定せず、年間を通じた応募・登録の実施
6. 年齢枠の撤廃
7. 職種にバリエーションをもたせ、様々な人が参加できるようにする
8. 隊員派遣を終えた人には何らかの資格を与え、国際機関への採用条件としたり、国際協力分野の大学院へ優先的に入学させる等の方策を講じる
9. JICA として帰国隊員の就職支援を強化する
10. その他(具体的に:)

Q4: 協力隊活動も ODA の一環であることから、評価を実施し、その結果を納税者である国民に対して説明する責任があるという考え方がありますが、あなたはどのように思いますか(○は一つ)。

1. そう思う
2. 思わない(理由は:)
3. その他(具体的に:)

II. あなたの活動についてお聞きます。

Q5: ご自身の活動の内容について、簡単にご記入ください。

- ☐ 配属先名(日本語で):
- ☐ 活動の目的:
- ☐ 活動の内容:

Q6: 上記の「活動の目的」は現在、何%程度達成されていると思いますか(%を示す数字を○で囲んで下さい)。

100 - 90 - 80 - 70 - 60 - 50 - 40 - 30 - 20 - 10 - 0 %

Q7: 「活動の目的」は任期終了時には、何%程度達成されると思いますか(%を示す数字を○で囲んで下さい)。

100 - 90 - 80 - 70 - 60 - 50 - 40 - 30 - 20 - 10 - 0 %

Q8： 配属先のあなたの活動に対するニーズは高いですか（○は一つ）。

1. 高い 2. やや高い 3. あまり高くない 4. 低い
5. その他（具体的に：)

Q9： 着任当初、配属先には隊員の活動計画や役割分担などについての明確な考え・認識がありましたか（○は一つ）。

1. あった 2. ややあった 3. あまりなかった 4. なかった
5. その他（具体的に：)

Q10： あなたの技術・知識レベルと、配属先が求める技術・知識レベルとは一致していますか（○は一つ）。

1. 求められるほうが高い
2. ほぼ一致している
3. 求められるほうが低い
4. 求められる技術・知識が全く違うものであった
5. 元々技術・知識は求められていない
6. その他（具体的に：)

Q11： あなたのカウンターパートの人数等についてお聞きます（○は一つ）。

1. カウンターパートの数は多すぎる
2. カウンターパートの数は適当である
3. カウンターパートの数が不足している
4. 当初カウンターパートは存在しなかったが、その後の交渉等により割り当てられた
5. 職場内に限らず独自でカウンターパートを発掘・育成した
6. 実質的にカウンターパートはいない
7. その他（具体的に：)

III. 国際交流と人材育成の観点からお聞きます。

Q12： これまでに、日本について紹介するような活動を行っていますか（○は一つ）。

1. 行っている
2. 多少は行っている
3. あまり行っていない
4. 行っていない

これまでに活動を行ったことがある方は、その活動内容を具体的に記入してください。

Q13：あなたは、配属先での活動以外で、地域に貢献するような活動（Q12でお聞きした日本を紹介する活動を除く）を行っていますか（複数回答可）。

1. 地域の住民や子供たちとのスポーツなどを通じた交流活動
(具体的に：)
2. 地域でのボランティア活動（具体的に：)
3. その他（具体的に：)

Q14：あなたの存在や活動を通じて、地域の人々の日本あるいは日本人に対する理解が深まっていると思いますか（〇は一つ）。

1. 理解が深まっている
2. やや理解が深まっている
3. あまり理解は深まっていない
4. 理解は深まっていない
5. その他（具体的に：)

Q15：帰国後の進路について、どのようにお考えですか（複数回答可）。

1. 国際協力に携わる仕事をしてみたい
2. 国際協力に関する勉強のために、留学したい
3. 国際協力に関する勉強のために、国内で進学したい
4. 復職
5. 特に国際協力に携わる仕事は希望していない
6. わからない
7. その他（具体的に：)

IV. 協力隊事業の実施体制についての改善点についてお聞きします。

Q16：募集に関して、改善すべき点がありますか（1,か2,のどちらかに〇をつけ、2.を選んだ場合はa,b,c,d…に複数回答。以下、Q23まで同様）。

1. 特になし
2. あり（複数回答可）
 - a. 募集広報（テレビ、ポスター）の内容等が現実とかけ離れている
 - b. 要請書の内容が不十分で、どんな活動をするのかよくわからない
 - c. 説明内容（説明資料等）が不十分である
 - d. 職種、活動形態、派遣期間等、バリエーションを増やす必要がある
 - e. その他（具体的に：)

Q17: 選考過程に関して、改善すべき点がありますか。

1. 特になし
2. あり（複数回答可）
 - a. 要請と希望者とのマッチングにもっと配慮して欲しい
 - b. 派遣時期などについて、隊員側への配慮が欲しい
 - c. 訓練生であっても、訓練期間中に不適切であると判断された場合は派遣すべきでない
 - d. その他（具体的に： _____）

Q18: 派遣前訓練（語学以外）に関して、改善すべき点がありますか。

1. 特になし
2. あり（複数回答可）
 - a. 必修科目にある（具体的に： _____）
 - b. 選択科目にある（具体的に： _____）
 - c. 施設にある（具体的に： _____）
 - d. 訓練所の体制・サービスにある（具体的に： _____）
 - e. その他（具体的に： _____）

Q19: 語学研修に関して、改善すべき点がありますか。

1. 特になし
2. あり（複数回答可）
 - a. 派遣前訓練の語学研修に改善点がある（具体的に： _____）
 - b. 現地訓練の語学研修に改善点がある（具体的に： _____）
 - c. その他（具体的に： _____）

Q20: 現地着任時の体制に関して、改善すべき点がありますか。

1. 特になし
2. あり（複数回答可）
 - a. 現地訓練に関してある（具体的に： _____）
 - b. オリエンテーション等に関してある（具体的に： _____）
 - c. 配属先への事前の説明に関してある（具体的に： _____）
 - d. その他（具体的に： _____）

Q21: 現地で活動中の在外事務所の対応に関して、改善すべき点がありますか。

1. 特になし
2. あり（複数回答可）
 - a. 在外事務所の対応が一貫していない
 - b. 要請背景調査を十分に行之、本当に必要とされる任地に派遣すべきである
 - c. 調整員の支援体制について問題がある（具体的に： _____）
 - d. 在外事務所は隊員にもっと関心をもって欲しい（具体的に： _____）
 - e. 活動支援費の分配に問題がある（具体的に： _____）
 - f. 治安・住宅に問題がある（具体的に： _____）
 - g. 健康管理体制を強化すべきである（具体的に： _____）
 - h. その他（具体的に： _____）

Q22: 運営や技術支援に対する JICA 本部の対応に関して、改善すべき点がありますか。

1. 特になし
2. あり（複数回答可）
 - a. 計画的・戦略的に隊員を派遣すべきである
 - b. 派遣前に現地の状況、派遣先などの詳細な情報を提供すべきである
 - c. 事務手続き（活動支援費・延長・任国外研修等）に時間がかかりすぎる
 - d. 的確で迅速な判断ができるよう、権限をある程度在外事務所に委譲すべきである
 - e. その他（具体的に： _____）

Q23: 運営や技術支援に対する技術顧問の対応に関して、改善すべき点がありますか。

1. 特になし
2. あり（複数回答可）
 - a. 一般的ではなくもっと現場（途上国）の状況を踏まえた助言が必要
 - b. こちらの質問にタイムリーな回答が必要
 - c. 自分の職種に助言できる顧問がいない
 - d. 任期中最低 1 回は現地視察をして欲しい
 - e. その他（具体的に： _____）

Q24: その他、協力隊事業についてご意見がございましたらご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。